ゑ入
くれしきてあらい　四

吉野山独案内巻四目録

吉野山独案内巻四

積苔椿山寺は日蔵上人の古跡なり日蔵十二歳の時当山にて髪をそり道賢と法名をつき東寺にて真言の密教をきはめ又は山林よりく里をめぐりて六のおひさ又五穀をたち世捨ふひら木食上人とやいはれし後修行の岩屋に七日こもり里を秘伝の穀断食の法をおこなひ事へ延喜十六年八月朔日午の刻に古かへりて息たえまうしされどもその身あたゝかなりて閻乃うらかいつさいりしゆへ死骸とそのまゝとさされたるむなさん

めに蘇生してましての後に日蓮と蓮昌の御肩
よろけ給ひ迷途のありさま語らせ給ひしに
ところに寺門地獄にたちしよしを閻魔王の御門と
御約束ありしそ蓮昌そのおかの威徳天神
の御社に日蓮蘇生の後遠志語りく我朝の
神社のうちにまつらる又日蓮といふ名は迷途にて
蔵王権現の金札に八字の文を書付給ひる
しるし日蓮上人といふなる彼金札に
目蔵九々　年月王護
と書付給へりと

大将軍
大えん天王

天皇乃橋志ろひて志はしと紙さへつもれたる
和州今井上田氏　長政

天皇の橋ハひつくり花ざかし

下りや此月　天王のたし此花の波
同　道信

大梵天皇

手向るや梵天皇より大和凧
勢州山田石跡　伊人
和州今井森世　顕真

狙奇
猿し坂

よしみ栢猿ゝ隠坂乃名やとて狗に篤三行ぬんとて
同州今西氏正蔵　宗獨

花ちるや猿ゝし坂の傾ふくれ
和州柳本妹尾氏　保直

籠にきよ猿ゝし坂の梅の花
同州原田氏　縫止子

断腸ハ猿ゝし坂乃落花哉
勢州山田石跡　伊人

さけびつれよ猿ゝし坂の郭公

風のまゝに猿ゝし坂の木葉かな
和州色生住　善行

猿しら坂のかれゝも花やましろ山　吉野山善福寺　正鉄

日よしみよさる坂の花さかり　河州津守前田氏　正香

辰尾　大坂野間氏　行安

和哥

花絃雲よ打その枝れも辰の尾にそひ付てくるどりかへ　和州今井今西氏　宗獨

同

和哥

天地東の道に千ぎの名ハ辰の尾の花といさまこ寄えかり　同今井安田氏　道佑

辰の尾の弟なるひ初し花の每　同久保氏　道佑

辰の尾ハ己の時と花のさかりかな　同和　雲説

一天とくれハ辰乃尾のさくらかな　勢州石見住　宗壽

咲気ハ天えふりの花の前哉　信昌

布し桜

みる人ハ布しかれや花の跡　攝州天王寺　道寸

〽そでも横たひろさ布引桜かな
引人も幕の布引さくらかな
布引の花のおりやうらぞあらし
布引や花にさらしの打雲句
布引の桜紅葉やおもひ染
布引の桜はよのうさらしけり
布引のさくらは山のうんごかな
布引や綱もしかくに桜草
布引乃桜や咲しまさらし
布引の桜のまくや白ふどし
茶巾かと波ふ布引桜かな
西脚号遠鈔書

京津崎氏 友賞
勢州山田荒木田氏 武珍
和州土佐加田氏 親則
同柳本妹尾氏 同
同俵本住 保之
同柏原住 守久
大坂住 可正
来孚
京下村氏 康吉
和州今井今西氏 宗獨
伊州上野住 野也

狂哥 ゆめちかへ

夢違あり観音なるひ給ふ木桃にさくや咲らん
　和州今井今西氏 正雄

こゝのめ花に嵐乃夢違
　同今井式部 宗定

於葛やさ月雨師のかゝしにて
　日本今西正盛 宗獨

実こき花に祈る雨師の観世音
　日本森世氏 顕貞

大将軍

花の風を大将軍のとゝめかな
　和州高取野沢氏 方好

○大将軍よりもさかり乃花に瀧櫻かな
　賭従三位為子

新義

まくれて家の文に消て今の嵐の流の白糸
　議同三同資

雲井桜
ちのと
中の人台
たきざくら

狂句

瀧桜

こよれハと狂奇狂言にあんてしまる向ふえの瀧桜や　大坂　行安

瀧桜みんなそろへてあらハれて見る発露　和州今井森世氏　元信

時しらすりや吉野の外の瀧桜　日下下村氏　玄可

花の波見ぬ目も明し瀧桜　日下　利直

見いへのこいのぼりたら瀧桜　和州高取中谷氏　貞長

春乃目に白糸い紡雑や瀧桜　加州世関木氏　正重

見そ似す国あい許由乃瀧桜　大坂住　重栄

わさ波ともにそそそそれ瀧桜　和州池田住　一九

一きんに乞ふらハ町知よ瀧桜　日下市朝夷奈氏　昌軒

風ま火花不動のごあんや瀧桜　吉野山池平氏　定勝

瀧桜落ても波やうくり花　常州真壁一盼氏　吉武

瀧桜さくらハ水の出花かな
和州郡山住 大進

あらためん酒に紅葉や瀧桜
同大網小川氏 草屋

雲井桜
河州茨井住 唯心

相并

あふのけハ雲井の桜うらしけハ雪をとつつさくらかな
勢州山田古跡 伊人

風代そらにまとふハ雲井桜
同所白米氏 滿通

うんはハ雲井乃桜は何ゟ又
同中田氏 友已

詠も儀しにけし雲井の花哉
和州高取石崎氏 宜時

異国を凌く雲井の桜哉
津守氏 往成

こあけハ顔ハ雲井の桜哉
山城伏見住 友世

短冊をつけまし雲井乃桜哉
和州今井木林世氏 元信

雲井桜天しもそけと栄上ゟ

中院名

短冊や雲の旅まつ花見会
まつさきにけよ出てみよ花見会
ふところに寄めんあめの花見会
西り落ては水鉄炮の花見会
花見会ともいは風の手拍子
月ありても花には酒さし花見会
落て又装武者やつかる花見会
たり髭のためにぬるそ花見会
うけてさん酒の中ざし花見会

麈尾

麈の尾ハ花のちらし乃目貫や
虎の尾にはよれもての尾の橋や

和州今井中沢氏 三肴
吉野山福井氏 首信
和州下田住 葦葉
高野山伴氏 清秀
和州寺田住 松拄
日ノ本久保氏 雲説
同人条住 流香
大坂住 玖也
和州今井下村氏 玄可
和州下市朝夷奈氏 昌軒
日ノ本久保氏 雲説

日今井守次氏　三首

しての尾の花のゑりや児文殊

らんと咲しての尾の桜かな

吉野山平甘氏　義房

まさ月ふりぬゆめのしてれ尾の盛哉

日俵本任　行好

しての尾は筆にいはれぬけしき哉

多武峯福之氏　宗貫

麻の尾の坂乃ふ人に世尊寺とて伽藍あり延
上しまへりふそあり御本尊ハ欽明天皇十三
年又月朔日に河内和泉乃さかひにひかり物あ
りそのし光いちらにしるかしまり時乃人あやしみ
て芝と誉志もれて勅使を立こなしめ給ふに大
なる楠乃朽木あらはれてそのひかり同梅のこゝちしはしていて

百済王乃佛師に命じ釈迦の像をつくらせ給ひ世尊寺に安置しまふ我朝佛像のさきと始なり大きさ物佛とよび又ひかりをはなち給ふゆへ放光佛ともいふなり釈迦の左右に阿難迦葉の御影あり同じ楊木の洞に役乃行者の像あり

山寺鐘

滋野貞主

行虬屡寫汗樓静　一道聞來初夜鐘
請識山僧巖水漱　焚香合掌拝尊容

長嘯

よし丸山寺ぞりそつむる根より採りにけりそのみの一丁ゑ

○此山は天竺霊鷲山の一かけ飛来りし山のたぐひに鷲の尾の寺とぞあるなり此鐘の銘に保延五年庚申十二月二日平朝臣忠盛と書付在之

後京極摂政前太政大臣

新後撰

一わしの御法の場にちる花と吉野の峯の嵐にぞみる

○わしの尾のほとりに人丸塚あり也行末志是里そのみのにほはせし山本にて人丸よりぬ花をしてもとむるはぬひしとなる也

続後撰

桜花咲にし日より吉野山空もひとつにかをる白雲

定家

新後撰

よしの山人にこゝろをつけかほに花よりさきにかゝる白雲　西行法師

風雅集

ゆく末は花のそれかとよしの山峯の白雲のかゝるまゝなん　家隆

金葉集

よしの山峯にさける白雲とみゆるは花の梢なりけり　藤原忠隆

ゆきそむるよりちるまでいはれなし

思ひやりしよりくる人の色こそ吉へ日そそぞ

てもしる哉

雪にあふて吉野のあらそふ花盛

京　貞室

人丸つか
世尊寺

世尊寺

世尊寺のこれゆきとみるや花盛　勢州山田白沐氏 満直

世尊寺や今日こそ寺の法の花　長谷本願院 定卜

二月十五日に詣て
きのふ孫今日ハ十六らんか　吉野青木氏 正古

初着を
風と松の花に初着の札まで　和州高取中谷氏 随楽軒

着きさ日や雛もまそら此初着を　同今井今西氏 正元

人丸塚
狂句
うるみて花紙雲のとみかけぬて吉野に行人丸の塚　大坂吉田氏 一寸

狂句
拵のかたにそ人恋れる小刀をけふ人丸のつかとこそみれ　和州今井今西氏 宗櫃

人丸のつゝ海ありや花のうけ　京山田氏　元隣

年乃物にあるや人丸の塚の花　和州高取福嶋氏　同東軒

花のかげ人丸塚やかりんのかの　林田氏　山親

人丸のつかのまや世の花ざかり　勢州山田中野氏　成伯

あさぎらに人丸塚乃まつさかな　紀州和哥山木村氏　㒒孫

鷲尾山

もとの尾のさや海も霧むさかな　和州高取在京氏　任世子

花と哥やもとのおやまに名を残　日岡関本氏　正次

世の花をとげとせおもしれ尾花　吉野山佛師　湛行

つゞきづし春乃花とやもとしの山　日本細井氏　次重

花とやもとしの尾山の花見哉　同三輪住　春昌

柳髪やいずれぬもし枕おもかげ　和州高取住　一昌都

八まん宮より二町計道ゟ鳥明神三社乃宝殿あり
常行堂拝殿楼門あり むかし拝殿乃哥仙ハ定家卿
の筆なりしと覚えし八炎上して後又再興せし
御社なりしとの哥仙乃絵ハ狩野永徳哥ハ佐々木の
聖覚院殿の御筆なり鳥明神ハ本地ハ
子あまたありしなかに三十六ちんめハ地蔵菩薩
乃化現なり此厨子にいつも住ひてむかしより
今にいたるまで古跡家をこれ一日つゝ御道場に
てやむことなき両くよ時の珍物をそなへ侍るよ
しつゐの地蔵菩薩也

遊吉野宮　　中臣人足

仁山狎鳳閣　智水啓龍楼　花鳥堪沉翫
何人不淹留

従駕吉野宮　　吉田宜

神居深亦静　勝地寂復幽　雲巻三舟谿
霞開八石洲　葉黄初送夏　桂白早迎秋
今日夢淵々　遺響千年流

侍従正宗

むかし雄略のきみの孫さしにて此神垣の花をと植けん

大納言雅章

みよしのにおふときわれにひとちてすゝもの文武花そとある

こまの大明神

家こゝろ世をひし城山あらし山下風に高砂の尾上の
しら雲もいふ下なる松の音ともなりの松とも
里忠信をこそ思ひけん山の尾上に吉野あり

為家卿

かゝる山吉野の山の嶺に立そへて尾上のかすみぬる花

新後遠

みよしのゝ高砂の桜咲にけり尾上もかすむ峯の白雲

参議為定

大納言雅章

おりにあへる花のさかりをかけて見し尾上の松も花にうつれる

同

高根よりおろす嵐の谷風に花の白雲みよしのゝ山

○たかねの谷よりも南に岩倉谷といへり

山中花夕

雪飛樵客漸歸地　月伴隱倫獨往春

雪宿洞中雛陽艶　風來溪北僅傳芳

顯輔

新勅撰

雲かゝる峯の山の高ねより雲きえて出る月影

かうえんだう
岩屋谷
桜谷
牛頭天王

高算も香人をと
高築も花ふうてやお上人

餅賦

花の趣とんいひの餅賦かな
正直やかへにうくる餅くらう
みよしのやちりにし里へ餅くらう
花にも上を詠めくらへうれし山
くらへ見ハ只餅花のみよしのや
みよしの天狗礫餅くらう
ちらくちるたのめにも入よしの山
ちるくさんかうても付や餅くらう
ぬれてふやうや吉野の餅くらう

和州高取太田氏　軌孝
和州今井横山氏　玄慶
同世関本氏　正長
同俵本住　三也
高野嶋田氏　山入
和州大条住　流香
同今井今西氏　宗獨
紀州平野住　家沢
紀州和寺山吉田氏　吸清
和州高元山　清風

城山

せめて花ミてかへるさや遠明志向山の花のさかりと　河州柏原三田氏　灑久

雲し雪し散ひし緑山の櫻哉　紀州菊原氏　見周

うしろ山やミちぬ櫻乃花軍　和州高取大田氏　是計

城山の腰の櫻や帯くるわ　同東海林氏　覚二

あらふひけおりしろふ山乃花の色　同坊城岸田氏　貞吉

城山乃櫻や風ふちりかたし　吉野世古室氏　守永

一番に名のあらハれ城山子規　同久保氏　為友

高城

山高き櫻をつとむ名所哉　多武峯中坊　證実

鄭躅居　和州今井今西氏　宗獨

粗井

このみ命ハ惜まれもせぬ花とてつきぬ枝にむすひ由かれて

血に鳴やつましか是の瀬鳥　勢州山田古跡 伊人
忠信よつましかれりしきの陰　博池鳩氏 詠之

遠砧

これりうかやけしと砧の音の花　和州今井寺田氏 道恍
峯の花ちりて砧のたゆみかな　同所今西氏 宗立
雪か花か色かあらぬ音の底　同太徳関本氏 正信
古寺とりつててら砧の音情　同柳本姥尾氏 保慶
月やうきたるかれ音かとめる　摂州平野住 家次

牛頭天王

七夕と祝ひこめうり牛頭天王　多武峯光純 古桶

岩倉砧

花ちりて今さら何と岩倉砧　和州今井今西氏 宗獨

准三宮道澄

神垣にいくとせ花のつもるらししめの内にも向ふかたから

一町あまりゆるひらに蹴抜塔とて隠家塔とていつの塔あり義經蹴抜すといひつたへ也けありかくれし家の山といふなり

讀人不知

○かくれしが家のよしの山のよふさ花とみよとや世をいとふらん

けぬけの塔より坂をのぼれば弁才天のやしろありすこしうへに茶屋あり

吉野山やいろはまで花の大和假名

京　吉足

けぬけのたう
弁才天
金精大明神
よろいかけまつ
ことだう

しらひけの松の雪見や真黒(くろくろ)郷　　和州土佐加田氏　親則

青葉ふ鳥居付青葉山

子規かゝりて青葉(あをば)の鳥居哉　　和州柳本懸氏　山翁

松かさしも秋やあり花青葉(ちう)山　　同郡山住　正辰

賢人(けんじん)の花紙みるめし青葉山　　同今井中沢氏　三首

琴台

ともれは松に琴(こと)の音(なる)時雨(しぐれ)かな　　同柳本津田氏　正明

琴の音の雪(ゆき)のつま弾時雨哉　　同妹尾氏　似水

秋洞

花紙つむ宙(ちう)のうちかや秋の洞(すぎ)　　和州今井今西氏　毎雄

ゆふこれはおすい花かや秋の洞　　同和門氏　勝重

秋の洞やとかれと花のおぼろひ　　紀州和哥山木村氏　猿孫